

佐 企 第 200号
平成20年10月3日

国土交通省道路局長 様

佐呂間町長 川根 章



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記の件について、別紙のとおり提出いたしますので宜しくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

北海道佐呂間町

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1) 物流を重視した道路網（ネットワーク）の整備

北海道は、農畜産物を始めとする食糧供給基地として、首都圏や国内各地に大量の食糧を供給しており、これらの物流の出荷拠点となる空港・港湾までは、殆どが陸送によるものです。

北海道特有の広域であるが故に、長距離輸送や冬期間における積雪及び路面凍結など悪条件が重なる中で、陸送による生産流通は地域住民の生活や地場産業の振興には欠かせないものです。

本町にあっては、町内外の酪農家で搾乳された生乳が町内に所在する生乳加工業者に集められ、加工製品として陸送により出荷されており、本町のみならず近隣市町村の農畜産業にとって、道路整備の重要性は計り知れないところです。

また、サロマ湖やオホーツク海から水揚げされる水産物の輸送においては、消費者ニーズの「新鮮さ」や「低価格」に応えるべく、安全かつ短時間・低コストにより実現できる道路網（ネットワーク）の整備が強く求められているところです。

以上を踏まえ、一般国道や都市間を結ぶ高規格幹線道路・地域高規格道路は、道道や市町村道も含めた中で産業道路網として大きなウェイトを占め、これらの道路の早期整備は地域経済を支える上において優先度が高く、また、必要不可欠なものであります。

2) 地方と都市の医療機関を結ぶ道路整備

北海道の小規模町村にあっては、過疎化・高齢化が進行する多くの無医集落が点在し、多くの町村では公立病院の経営及び公的医療機関への依存により医療体制を整備しているところですが、診療科目が限られることから都市病院への通院を余儀なくされているところです。

更に、医療制度改革による診療報酬の引き下げや看護体制の見直しなどの要因から経営状況の悪化や大学病院からの医師派遣打ち切りなども相まって地域医療の確保が非常に困難な状況となっております。

このような中、これまで地元で受けられていた地域医療でさえ、今後は都市の病院に委ねなければならないことが危惧されているところです。

また、本町にあっては高次医療が受けられる近隣都市との距離が35～45kmと離れているばかりか、山間地域であることから峠越えによる移動が必要となり、車による移動も約1時間弱の時間を要することとなります。

これらのことから、一般診療の通院は勿論のこと、一刻を争う救急医療及び高次医療を必要とする患者の輸送には、北海道特有である山間地域の冬期間の積雪や凍結に配慮した一般国道の整備の他、地方と都市を結ぶ地域高規格道路の整備を重点的、且つ優先的に行うべきものと考えます。

3) 生活経済圏における生活路線としての道路整備

広大な面積を有する北海道にあっては、都市内の移動を除けば日常生活の移動の殆どを車に依存しています。

また、道東地区においては、集落が広域に分散していることから、日常生活において車は欠かせない存在であり、かつての公共交通のメインであった鉄路は主要幹線以外の殆どが路線バスに転換されており、道路への依存度は非常に高いものとなっております。

現代の車社会の進展に伴い生活経済圏も広域化され、通院や通勤、通学においても路線バスや自家用車により遠距離化されている状況にあり、郊外への大規模店等の進出により日常的な買い物も車による移動により都市に集中する傾向となっております。

以上のことから、地方と都市を結ぶ生活路線の整備は重要であり、優先的に行うべきものであると考えます。

4) 高規格幹線道路や地域高規格道路の効率的整備

現在、高規格幹線道路や地域高規格道路は、国内各地で整備が進められていますが、整備状況を見た時、計画路線を端から順次整備するのではなく、途切れ途切れに整備し暫定的に通行させている区間を多く見かけます。

利用者にとっては、高規格幹線道路と一般道を交互に走行することになり、走行時間の短縮化が図られる一方で、高規格幹線道路への乗り降りに不便さを感じると考えます。

集中的に整備を行い、路線を順次延長させていく方が、より効率的であると考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

北海道佐呂間町

○現状

- 1) 本町の道路網は、国道2路線と道道6路線、町道275路線が結びつき、産業活動や生活の基盤となっていますが、歩行者や交通弱者の安全対策に更なる整備を要する箇所は少なくありません。
歩道の未整備箇所においては冬期間の積雪により、歩行が困難であり、また、近年は交通量が増加傾向にあるため、車輦と歩行者がすれ違う場面において危険な状況が生じています。
- 2) 地球環境の変異に伴い日本各地で異常気象の事例が報告されています。本町においては、大雨や竜巻により尊い命が失われる重大事故が発生し、幹線道路が寸断される状況になりました。
幹線道路の寸断に伴い迂回路が必要となりますが、道路の欠落により迂回路が通行不能となった状況があり、混乱を招く事態が発生しました。
- 3) 地震の少ないオホーツク地域において、千島沖地震に伴い津波警報が連続して発令されたことは、記憶に新しいことであります。
地震が少ない地域であるからこそ、地域住民はその対応に不安を募らせており、情報収集は独自の防災連絡体制を整備していない町村において、テレビやラジオ放送に頼らざるを得ない状況にあります。
- 4) 道東地区においては、集落が広域に分散していることから、日常生活において車は欠かせない存在であり、かつての公共交通のメインであった鉄路は主要幹線以外の殆どが路線バスに転換されており、道路への依存度は非常に高いものとなっております。

○課題

- 1) 路肩拡幅や歩道整備による歩行区域の確保と危険箇所の早期改修
- 2) 大雨災害等に強い道路整備が必要不可欠
国道・道道・市町村道の危険箇所の早期改修（迂回路となる道路の狭小橋梁の改修等）
- 3) 国土交通省・気象庁・市町村が一体となった防災連絡体制の整備と防災対策の強化
- 4) 高規格道路・地域高規格道路の整備

町内外の酪農家で搾乳された生乳が町内に所在する生乳加工業者に集められ、加工製品として陸送により出荷されており、本町のみならず近隣市町村の農畜産業にとって、道路整備の重要性は計り知れないところです。また、サロマ湖やオホーツク海から水揚げされる水産物の輸送においては、消費者ニーズの「新鮮さ」や「低価格」に応えるべく、安全かつ短時間・低コストにより実現できる道路網（ネットワーク）の整備が強く求められているところです。

高次医療が受けられる近隣都市との距離が35～45kmと離れているばかりか、山間地域であることから峠越えによる移動が必要となり、車による移動も約1時間弱の時間を要することとなります。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

北海道佐呂間町

- 産業活動の効率化や高次医療を受診できる都市病院への通院、生活圏の広域化及び歩行者の安全確保などに対応する為、国道や道道の整備及び高規格幹線道路・地域高規格道路の早期整備の促進に努める。
- 町道の計画的な改良舗装整備と維持補修を行い、道路環境の整備を図る。
- 除排雪体制の充実と路面凍結対策を行い、車と歩行者の安全対策を図り、且つ、地域産業における輸送体制の維持に努める。

今後の道路行政についての意見・提案

北海道佐呂間町

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果	○その他
・圏域連携及び広域的交流の強化 ・地域住民が安心できる交通安全対策	・地域高規格道路「遠軽北見道路」の整備促進 ・一般国道333号(若佐市街地～栃木間道路の路肩拡幅)及び238号(富武士地区の路肩拡幅)の整備促進	・オホーツク生活圏の中核都市である北見市と紋別遠軽圏を連絡する道路であり、また、北海道横断自動車道と旭川紋別自動車道を連結し、高度なネットワークを形成し、圏域の産業活動や地域振興に大きく寄与することになる。 また、本町においては、緊急医療・高次医療を受診できる都市病院までの所要時間が短縮され、地域住民がより安心安全に生活を営む事ができるようになる。 ・一般国道333号については、道路幅が狭小な区間の路肩拡幅を行うことにより、歩行者の歩行空間が確保され、更に安全面が向上することから、今後、佐呂間防災トンネルの開通に伴う交通量の増加にも対応ができる。 また、238号については、道東の主要幹線道路として交通量が多く、路肩拡幅を行うことにより、サロマ湖畔の散策や道の駅にホテルから徒歩で利用される方の交通確保が期待されるところです。 更に、歩道を整備する場合と比較し、冬期間の除雪などを含めた維持管理も容易になる事が予想される。	